

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、私らしく、そして貴方らしい生活の継続をして頂く為に、地域性を踏まえ、入居者中心に寄り添ったケアをしていく理念を挙げている。	○ 本年度の目標の中で「地域の方々との交流を設定する」掲げること、年間も交流の計画の実現が明確になった
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各館の見やすい場所（玄関・リビング）に理念を掲示している。職員へは、理念についてアンケートを実施し、理念の実践について意識付けを行い、日々のサービスの提供場面において心掛けをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明記、又、ホームページにて、理念の紹介をしている。理念の達成を目指し、家族・地域向けに、毎月の広報紙の発行を行っている。地域や関係事業所等の集りで、理念を含め、活動内容について広報を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と職員とで、散歩や買い物に地域に行くことにより近隣の方々と話す機会・時間がある。地域の祭りの準備にも参加し、親睦会へも参加している。事業所の祭りの時には地域の方々もご招待をしている	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事や事業所の祭り等、お互い交流の場をもうけている。又、地域の子供会が来所されたり、入居者と交流をしている。地域で運営している販売所にて買い物をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>実習生や地域のボランティアの受け入れを積極的に行っている。事業所として傾聴ボランティアの育成の取り組んでおり、町の傾聴ボランティアの事業にも講師派遣と実習の受け入れをしている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で取り組んでいる。各館（ユニット）毎と全館（3館）で評価することで、館（ユニット）によって出来ていない箇所を把握し、意識して改善している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議で入居者の概要などを数字化・グラフ化し報告している。又、行事等は写真や動画を使用し、雰囲気を感じていただいている。メンバーは、地区長・入居者の家族、行政の方々で、積極的な意見を頂いている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外では、行政の担当窓口や包括支援センター等に電話や定期的な訪問等を行い、連絡・連携を図っている。また、ケアマネ連絡協議会等で情報提供や意見交換をしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度についてのパンフレットをファイルし、玄関に設置している。以前に入居者・家族が成年後見人を立てたケースがあり、知識として学ぶ機会があった。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修や包括支援センターの報告により虐待についての基本的な心構えやネットワークについて学んでいる。「高齢者と家族との関係の理解」について、職員に資料を配布するなどし、家族の相談に応じて、虐待がおこらないよう広報・相談を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問等で説明し、入居希望時は、契約を交わすにあたり十分な時間をとって説明を行っている。特に入院になった場合や、料金については充分説明を行っている。法改正等で内容が変わった場合は、全入居者に、重要事項説明を行い同意書を交わしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口として各館ユニット長が対応している。 ゆっくり話ができるスペースを確保し、内容に関しても報告できるシステムをつくっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理については、出納帳を作り、3カ月～6カ月に1回、家族に報告し、サインを頂いている。職員の異動も掲示し、また、個別に報告している。入居者の健康状態については、基本的には面会時に行っており、急ぎ事がある場合は、緊急連絡網で電話で報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回程度を実施している。会長が用意された出欠確認表の意見欄に回答を返すようにしている。又、運営推進会議や気づき箱を設置し、窓口を設けている。 また、ケアプランの説明にあたり、ニーズ収集をすると共に、事業所に対しての意見も頂いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長・管理者を交え、月1回3館合同の役付会議・及びスタッフ会議を開催している。又、運営会議（隣接の老健も含めた、全体の管理職会議）の内容の報告を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況で勤務態制を変える環境を作っている。入居者の状況に合わせ、出勤時間の変更や人員の集中を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>出来るだけ固定の職員でローテーションが組めるようにしている。異動や離職があった場合は、補充の職員として、認知症介護が出来る人材を求め、その採用者には、昨年度から、新人職員の研修カリキュラムを導入した。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>昨年度から、中堅職員・新人職員の研修カリキュラムを導入した。年間計画をたて、積極的に、計画的に研修を受けられるようにしている。併設の老健施設や協力病院院内の研修等、グループホーム連絡協議会や、県社協・職業能力開発協会などの勉強会・研修会に参加している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>さまざまな研修の機会や、グループホーム連絡協議会のブロック研修で交流の場があり、意見交換をおこなっている。一昨年は、職員全員に他グループホームの見学に行ってもらい、その結果を元に業務改善に取り組んだ。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>ストレスに関する研修会への参加や、資料配布を行っている。必要に応じ心理士へ相談・カウンセリングを行っている。事業所として親睦会・スポーツ・職員旅行を企画し、交流の場をつくっている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>全職員を対象に、年2回、自己評価を実施している。その内容を元に各自の目標を設定、自己研鑽、モチベーションの向上の機会として各所属長とのヒアリングを実施している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の希望があったら、すぐにご本人に会いに行き、顔合わせをしている。実際に入居可能な状態で再度会いに行き、早い時期にご本人等に事業所の説明や生活について伝えている。ご本人に会うことで心身の状態や、訴え・希望を聞けるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の希望(相談等)があったら、ゆっくりと話す時間をとり、資料を通し情報の提供と入居希望に至った経緯などをうかがっている。お申し込みがあり空床がない時は、定期的に待機状況等をお知らせし、連絡をとっている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要で、満床等の理由により、受入れ困難な場合などには、併設の老健施設や、地域包括支援センター等と相談しながら、受入れ可能になるまでの期間のサービスを検討して対応をしている。入居可能な状態の時に、直ぐに面談等を行い、サービス開始ができるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で、利用開始をするように務めている。見学はいつでも出来るようにしており、その場の環境を見て頂いたり、見学時に一緒に食事を取っていただいている。開始後、慣れるまで、家族も宿泊出来ることを伝えている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付けを見てもらったり、調理方法を聞いたりしている。また、一緒に作物を作ったりしており、その際に生活の知恵などを教えていただいている。 感情失禁している入居者がいる時は、落ち着くまで、しばらく寄り添い話を聞いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と親睦会を行うことで、面会時に入居者の様子や、職員の思いを伝えやすくなり家族の協力を得ることができ、本人にとっても、良い環境を提供できるようになっている	○	家族ともより多く情報交換を行い、本人を支えていく協力関係が築けるようになりたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式のアセスメントを活用し、生活暦や家族関係の情報収集に努めている。 行事（家族会、ドライブなど）への参加をすすめ、ふれあいの場を提供している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚の面会が多く、積極的な面会の場を設けられるよう行事等を企画している。 外出、外泊の推進し、外出の際は墓参りやなじみの店などに行かれています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の精神状態や認知症の状況、生活暦を把握し、入居者同士の不仲な関係を把握し、大きなトラブルを未然に防ぐよう努めている。 耳が遠く、会話が成立してない様な時は、不快にならないよう、橋渡し役になっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ドライブなどの行事の際などは、御家族に声を掛け、参加して頂くこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中やケアプラン説明時において、ご本人・ご家族のニーズを把握している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や、入居後の面会時に、センター方式のアセスメント書式を使用し、どのような生活をされていたのが聴いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間の申し送りで情報を共有し、入居者の状態を把握し、統一したチームケアを行なっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活暦やなじんだ過ごし方を継続する為、職員、本人やご家族や知人の意見を収集し、勘案して介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に中間評価、6ヶ月毎に職員でカンファレンスを行っている。カンファレンスに参加できない職員には意見書を提出させ、全ての職員の意見を元に、介護計画を作成している。状態変化のある入居者については、その都度現状評価を行い新たな介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、特記事案については、各勤務者が随時、カルテに記入。情報共有については、連絡ノートを活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算による看護師の配置及び、各館1名の看護職を配置している。受診困難な入居者や対応困難な家族については、臨機応変に職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの呼びかけをし、来て頂いている。消防署職員の方々にも年2～3回来て頂き消防訓練の評価を頂いている。近隣の学校の実習施設としてや、体験ボランティア、ワークキャンプ等の受け入れしている。民生児童委員会の会合へ毎月参加させていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアの活用、訪問理美容、訪問歯科サービスの実施をしている。 地域のケアマネジャーやサービス事業者とは町のケアマネ連絡協議会を通じ、相談・連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例（徘徊など）は地域包括支援センターと相談している。徘徊等は地域の協力を得ながら、入居者支援を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>事業所の協力医療機関の他、以前からのかかりつけ医での医療が自由に受け入れられるように各医療機関と連絡・連携を取っている。緊急性がある場合は、協力病院での対応が可能であるように、同意を頂いている。</p>		
44	<p>協力病院の医師又は、併設の老健施設の医師により、指示や助言を頂いている。又、併設の医師より、専門医の紹介を頂いており、受診している。</p>		
45	<p>各館に看護職を配置している。又、夜間緊急時は併設の老健施設の看護職に連絡・相談・対応ができる体制にしている。</p>		
46	<p>入院した時、退院予定期日を確認し、家族や医師・ケースワーカーと相談しながら、早期退院に向け、調整しており、受け入れがスムーズにいくよう、情報交換をしいる。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針を作成し、かかりつけ医との連携が出来るような体制にしている。</p>		
48	<p>医療行為・処置が多い利用者の受入れが出来るように、看護職を増員した。 終末期の対応については、協力病院と協力しながら、また、併設老健施設の看取り委員会と情報交換や勉強会を通じ、対応できる体制づくりをしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者へは、ご本人のなじみのある名前では呼んでいる。</p> <p>個人記録に関しては、イニシャルや番地名で記入している。</p> <p>個人の部屋と共有スペースを活用し、プライバシーの保護に努めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の好きな食べ物、飲み物を聞き、おやつやお茶の時間などに提供する場を作っている。</p> <p>散歩等の外出の機会も、個人の希望により、なるべく個別に対応している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな日課、あるいはタイムスケジュールは存在するが、散歩、食事、レクリエーションなど、本人の意思や希望等に合わせ、その都度支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お化粧品やネイルなどお洒落の声掛けをして差し上げ、喜ばれている。理容、美容は定期的に訪問してもらっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、後片付けや味付け等で、利用者に協力をもらいながら食事を行っている。 摂取量が多くなるように、味付けも工夫している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を好む方は、家族会やドライブ、外食等で飲酒されている。 嗜好品の他にも、好きな食事は、多く取り入れるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは必ず把握している。 排泄チェック表をチェックし、声掛けを行い誘導している。又、拒否のある入居者については、時間をおいて声掛けをしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかに入浴日は決めてあるが、時間帯は本人の好きな時間で入浴できるように促している。拒否などがある場合には、翌日に繰り越し、他の入居者に声かけを行うなどして、無理強いのない入浴を促している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の方には、スタッフが寄り添い話を傾聴している。談話室が落ち着くようであれば、場所を提供し、休憩や入眠されるなどしている。希望があれば、晩酌をして就寝される方もいらっしゃる。日中はレクリエーションや散歩などしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族会、ドライブ、誕生会など楽しんで頂けるよう企画している。 洗濯物たたみや食器洗いなど、他入居者やスタッフと会話を楽しみながら行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しているが、希望される入居者の方には、ご自分で管理して頂く様にしている。 外出された時は、自分で支払いをされる方については、していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、その日の天候や状況に応じて、個別的に、また集団的に対応している。 帰宅願望があったりした時は、スタッフと個別にドライブなど行く。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的にドライブなどを企画し、外出する機会を作っている。又、入居者の希望があれば、その都度買物やドライブに行っている。 地域の行事や祭りには積極的に参加している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった時には、職員が援助をしながら電話をしていただいている。 手紙が届いた場合は、ご本人へ直接お届けしている。 切手やはがき等いつでも必要な時に渡せるように準備している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時には、職員と利用者で出迎えを、来所持にはお見送りを行っている。又、共有、個別スペースを利用し、お茶の準備、配膳をし、入居者とゆっくり会話出来るよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などに積極的に参加し、得た知識を、スタッフ会議や回覧物に綴り、全職員の意識付けをしている。 関係図書を購入し、全職員へ回覧している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	集団生活する上で、さまざまな危険があることを説明し理解して頂いている。個々の身体レベルが低下し、新たなリスクが発生する場合は、家族に説明をし、今後の支援について話し合いをしている。 病状についても、併設老健の施設長や主治医と連携を取り、説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に様子観察（バイタルチェック他）を行ない、体調の変化などを早期発見し、健康管理に努めている。 緊急時や徳返事は、医師に相談し、受診などの対応を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各館1人以上の看護職員を配置し、中心になって服薬の管理している。 薬の効能など書かれた文書が個人ファイルにとじてあり、すぐ見られるようにしてある。医師の指示通り服薬支援している。 全入居者が内服している薬の種類ファイルを作成している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩を行ったり、乳酸菌飲料などを使い、便秘予防を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々人の力に応じて見守り、又は介助を行っている。口腔内や義歯に問題のある場合、家族に相談し訪問診療をしてもらっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の確認と毎月の体重測定で、個々人の体重管理を行い、栄養状態や水分摂取量に問題がないかその都度確認している。摂取量減少、体重減少のみられる入居者には栄養補助食品などでバランスを整えている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	年1回インフルエンザの予防接種を勧め、利用者の全員が実施している。予防と発生時の対応はマニュアル化している。 併設老健の衛生管理委員会が企画する会議や勉強会に参加している。 手すりや便座の消毒を毎日実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所内の衛生面については、担当を決め、掲示をし実施している。食材については、各業者に毎日から週2回の配達をして頂き、残り物が出ないよう料理を行っている。併設の老健施設の衛生管理委員会の勉強会に参加している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	純和風造りの建築で、木を生かした表札や門構えをしている。玄関の入り口にプランターや鉢を置き、家庭的な雰囲気を出すよう努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾っている。又、季節の行事に合わせて、入居者と職員でかざりつけをしている。 採光については、十分に取り入れ、まぶしすぎる時には、調整できるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各館2ヶ所の談話室を設置し、必要に応じて食事の場の交流・昼寝・レクの場として癒しの空間づくりをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四方を囲まれた丘にあり、陽射しの絶えない明るい施設で、みかんの花や、桜の花が咲く、景色の良い場所にあります。建物は、平屋建てで、談話室に囲炉裏を設けるなど、昔の雰囲気と懐かしさを感じながら生活していけるようにと、生活環境に工夫がされています。当事業者は、3ユニット定員27名で、理念「私らしく、そして貴方らしい生活の継続を、豊かな心で、ゆったり寄り添って」を挙げ、その入居者の生活リズムに合わせ、支援をしております。併設に老健施設があり、施設の利用者の方々との交流が楽しめます。緊急時にも、直ぐに連携がとれる体制になっています。開設時より家族会が発足され、年に3回程度家族会を行い、家族、入居者、職員との交流の場を作っています。老健施設との合同の秋祭り・花見会もあります。情報開示(発信)の一環として、ホームページを設置しており、施設の概要や行事等を掲載しております。

各ユニット毎に年間計画(買い物・ドライブ)を立て取り組んでおり、家族等も参加して頂いています。地域の行事(祭り等)に積極的に参加しています。